

第七百八十三條 公示催告ノ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要チル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

●所得稅法

(大正九年七月三十一日)
法律第十一號

(沿革) 大正一一年四月法律第四五號、一二年三月第八號、第二九號、四月第一號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第一條ノ二 本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ信託財產ノ運用方法ヲ預入又ハ貸付ノミニ限定シタルモノヲ謂フ

第二條 第一條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アル

モノトス

一 本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ

二 本法施行地ニ公債社債又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ

三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一種

甲 法人ノ超過所得

乙 法人ノ留保所得

丙 法人ノ配當所得

丁 法人ノ清算所得

戊 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル所得

第二種

甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債社債又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利益

乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第三條ノ二 信託財産ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託ニ付テハ此ノ限リニアラス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ナルトキト雖モ尙所得稅ヲ賦課ス

受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

信託會社ノ所得計算ニ付テハ貸付信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ控除ス

第四條 法人ノ所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益又ハ剩餘金ニ依ル

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ所得ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 法人ノ各事業年度ノ所得カ同年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ

以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テハ繰越缺損金アルトキハ其各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 本法施行地ニ本店若クハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ第九條 法人ノ各事業年度ノ所得中積立金ト爲シタル金額ヲ以テ法人ノ留保所得トス法人カ積立金ヲ減少シタルトキハ減少額ヲ填補スルニ三ル迄其ノ後ノ各事業年度ノ留保所得ニ付所得稅ヲ課セス

積立金ヲ減少シタル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ付前項ノ規定ヲ適用ス但シ合併ノ際合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ積立金ヲ以テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ株式金額ニ充當シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 法人ノ各事業年度ノ所得中利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充當シタル金額ヲ以テ法人ノ配當所得トス法人ノ積立金ヲ減少シテ利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充當シタル金額ハ之ヲ前項ノ配當所得ニ加算ス

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ剩餘財産ノ價額カ解散當時ノ拂込株式金額出資金額積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存続スル法人若クハ合併ニ因

リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金銭ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

- 一 俸給給料歳費年金恩給退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與、營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債社債及預金ノ利子ハ其ノ收入豫算年額
- 二 田又ハ畑ノ所得ハ前三年間毎年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引續キ自作セス、小作セス又ハ小作ニ付セサル田又ハ畑ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額
- 三 山林ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額
- 四 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ收入金額
- 五 法人ヨリ受クル利益若クハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ收入金額ヨリ其ノ十分ノ四ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ノ受クル配當ハ同期

間ニ於テ支拂ヲ受ケタル金額ヨリ其ノ十分ノ四ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額

六 前各號以外ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル收入豫算年額

法人ノ社員其ノ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ退社當時ニ於ケル出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ其ノ他人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込済金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額亦同シ

第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除ス
戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十六條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テ其年四月一日現在ノ同居ノ戸主及家族中年齡十八歳未満若クハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者アルトキハ其ノ所得ヲ有スルモノノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依ル金額ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限りニ在ラス

- 一 所得千圓以下ナルトキ 一人ニ付百圓
- 二 所得二千圓以下ナルトキ 一人ニ付七十圓

同

三 所得三千圓以下ナルトキ

同

一人ニ付五十圓

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ前項ノ場合ニ於テハ所得ヨリ控除セラルヘキ金額ハ各其ノ所得ニ案分シテ之ヲ計算ス同一人ニシテ山林ノ所得以外ノ所得ト有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第一項ノ不具癡疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ム二以上ノ信託アル場合ニ於テハ尙各信託毎ニ之ヲ定ム

第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス

第十六條ノ三 自己若クハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

第十七條 北海道府縣郡市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

一 軍人從軍中ノ俸給及手當

二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退職料

三 旅費、學資金及法定扶養料

四 郵便貯金、産業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子

五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

七 乘馬ヲ有スル義務アル軍人カ政府ヨリ受クル馬糧糞畜料及馬匹保護料

第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第二十條 第三種ノ所得ハ八百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十五條及第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲八百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十一條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額百分ノ四
同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十

附錄 關係法規正文

九四

同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ二十

乙

百分ノ五

丙

百分ノ五

丁

百分ノ七、五

戊

百分ノ七、五

法人ノ事業年度末ニ於ケル積立金及其事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額カ其ノ事業年度ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及之ニ代ルヘキ積立金ノ合計金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其超過金額ニ屬スル其ノ事業年度ノ留保所得ニ對スル税率ハ百分ノ十トシ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及之ニ代ルヘキ積立金ノ合計金額ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ニ屬スル其ノ事業年度ノ留保所得ニ對スル税率ハ百分ノ二十トス但シ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ二十分ノ一ニ相當スル金額以内ノ金額ニ付テハ其ノ税率ハ百分ノ五トス

第二十二條 第二種ノ所得ニ對スル所得税ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 公債ノ利子 百分ノ四

其ノ他 百分ノ五

乙 百分ノ七、五

第二十三條 第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各税率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ

山林ノ所得ト山林以外ノ所得トハ之ヲ區分シ各別ニ税率ヲ適用ス

八百圓以下ノ金額 百分ノ〇、五

八百圓ヲ超ユル金額 百分ノ一

千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二

千五百圓ヲ超ユル金額 百分ノ三

二千圓ヲ超ユル金額 百分ノ四

三千圓ヲ超ユル金額 百分ノ五

五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ六、五

七千圓ヲ超ユル金額 百分ノ八

一萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ九、五

一萬五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ十一

二萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十三

三萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十五

五萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十七

七萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十九

十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十一

附錄 關係法規正文

九五

二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十三
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五
百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十七
二百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十
三百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十三
四百萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ三十六

前項ノ場合ニ於テ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ税率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ其ノ稅額ヲ定ム戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若クハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ本法施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第十六條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第二十六條 第一種ノ所持金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ノ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第二十七條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條 各稅務署所轄内ニ所得調査ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

調査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補關員ヲ選舉スヘシ

第三十條 調査委員及補關員ノ選舉區域ハ所得調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役務事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第三十一條 選舉區域内ニ住居シ前年第三種ノ所得稅ヲ納メ其ノ年第二十五條ノ申告ヲ爲シタル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調査委員及補闕員ヲ選舉シ又ハ調査委員若クハ補闕員ニ選舉セラルルコトヲ得但シ右ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限リニ在ラス

一 無能力者

二 被産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第七十四條乃至第七十六條ノ規定ニ依リ處罪セラレタル後五年ヲ經タル者

前項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス

選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第三十條 第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス

第三十三條 稅務署長ハ調査委員及補闕員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第三十四條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ら投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十五條 市區町村長又ハ戸長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十六條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十七條 投票開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シトキハ年齢ノ多キモノヲ取り年同シトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム調査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第三十九條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十條 調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十一條 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ選舉區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於

テハ其ノ任期ハ選舉區域ニ變更ヲ生シタル日ノ屬スル月ヲ以テ終了スルモノトス

第四十二條 調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十三條 調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査員ニ闕員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ調査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第四十四條 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補闕員ト爲リタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十五條 調査委員又ハ補闕員第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ、第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ又ハ其選舉區域内ニ住居セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第四十六條 所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十八條 所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス
議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十條 調査委員ハ自己自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十一條 八月三十日迄ニ所得調査委員會成立セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ八月三十日迄ニ調査終了セサルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス

第五十二條 政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議不當ト認ムルトキハ又ハ再調査期間内ニ調査終了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十四條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十五條 本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滞ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調査書ヲ政府ニ提出スヘシ

一 公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額

二 利子支拂期限及利率

三 償還ノ方法及期限

四 數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第五十六條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若クハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ
信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第一項又ハ前項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十九條 第二十六條、第五十一條又ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種又ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第六十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第五十二條ノ規定ハ所得審査委員會ニ之ヲ準用ス

第六十二條 各稅務監督局所轄内ニ所得審査委員會ヲ置ク

所得審査委員會ハ左ノ查員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人

所得審査委員會、審査委員及其ノ補員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第六十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者收入豫算年額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限りニ在ラス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第六十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ收入豫算年額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリトキハ之ヲ更訂ス

第六十六條 納稅義務者第六十一條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ專業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

第三種ノ所得ニ付テハ所得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得税ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得税ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得税又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セラルル税金ヲ納付セシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納税ノ義務アルモノトス

第七十條 第六十四條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十一條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ動定アリタルトキハ政府ハ納移義務者ノ住所以外住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得税ハ納税義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納税地トス但シ住所以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納税地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第七十三條 納税義務者納税地ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納税其ノ他所得税ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲稅務管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第七十三條ノ二 政府ハ法人ノ株主又ハ社員ノ一人及其親族、使用人其ノ他特殊ノ關係アリト認ムル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ニ付テハ其ノ留保シタル所得中左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限リ之ヲ株主又ハ社員ニ配當シタルモノト看做スコトヲ得

一 事業年度ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ所得中留保シタル金額ノ合計金額カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ニ屬スル其ノ事業年度ノ所得中留保シタル金額ヨリ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ二十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額

二 各事業年度所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

各事業年度所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ニ對シ年三十分ノ一ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過セサルモノニ付テハ前項第二號ノ規定ヲ適用セス

第七十三條ノ三 前條ノ法人ト其ノ株主又ハ社員及其親族、使用人其他特殊ノ關係アリト認ムル者トノ間ニ於ケル行爲ニ付所得税遁脱ノ目的アリト認ムル場合ニ於テハ政府ハ其ノ行爲ニ拘ラス其ノ認ムル所ニ依リ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

第七十三條ノ四 政府ハ前二條ノ規定ヲ適用セムトスルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ之ヲ決定ス

第七十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ遺脱シタル者ハ其ノ遺脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ遺脱シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第七十五條 正當ノ事由ナクシテ第五十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書又ハ計算書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其提出ニ係ル支拂調書又ハ計算書ニ付第五十六條第三項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第七十六條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限りニ在ラス

附則

第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ

適用セス

賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ從前ノ規定ニ於テ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ本法施行前ニ於ケル收入金額ニ限リ、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限リ大正九年分第三種所得トシテ計算ス

第七十九條 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人又ハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル第十四條第一項第四號及第五號ノ所得其ノ他本法施行前ニ於ケル第十四條第一項第四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セス

第八十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十一條 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十一日ニ至ル間終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限リ本稅ノ三割五分ヲ増徴ス

大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルトキハ前項ニ該當スル萬事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年度分ノ超過所得ニ付テハ本法ニ依リ所得稅ヲ課シ仍本稅ノ三割五分ヲ増徴ス

第八十二條 所得調査委員審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ從前ノ規定中八月三十日迄トアルハ九月三十日迄トス

從前ノ規定ニ依ル所得調査委員、補助員及所得審査委員ノ任期ハ大正十年五月一日ヲ以テ終了ス

第八十三條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ニ限リ第一期ノ納期ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス

第八十四條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行ス

○大正十二年法律第八號附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル銀行預金利子中從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限リ大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

○大正十二年法律第二十九號附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ受クル貸付信託ノ所得ニシテ從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ信託利益ノ支拂期カ本法施行前ニ在ルモノニ限リ大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

●營業稅法

(明治二十九年三月二十八日)總、各副署
法律第三十三號

(沿革)

明治三十二年三月法律第三二號、三十五年三月第一八號、四三年四月第四五號、四四年三月第三九號、

大正三年三月第二〇號、四年六月第二五號、一二年三月第九號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業稅法

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 保險業
- 一 無盡業
- 一 金錢貸付業
- 一 物品貸付業
- 一 製造業
- 一 運送業
- 一 倉庫業
- 一 運河業
- 一 棧橋業
- 一 船舶碇繋場業
- 一 貨物陸揚場業
- 一 鐵道業
- 一 請負業
- 一 印刷業

附錄 關係法規正文

- 一 出版業
- 一 寫真業
- 一 席貸業
- 一 旅人宿業
- 一 料理店業
- 一 周旋業
- 一 代理業
- 一 仲立業
- 一 問屋業
- 一 信託業

第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

- 一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
- 二 一定ノ製造物ヲ設ケ物品ヲ製造シテ販賣スル者
- 三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ請求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鷄卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シ之ヲ販賣スル者

五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額二千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品

通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

運轉資本金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使用シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及物品ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額千圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ三人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ一 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ從業者三人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ二 地方鐵道法又ハ軌道條例ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

附錄 關係法規正文

- 第七條 印刷業、出版業、寫真業ニシテ従業者三人以上ヲ使用セサル者及請負業ニシテ請負金額一箇年二千圓未満ノ者ニハ營業稅ヲ課セス
- 出版業ニシテ新聞紙法ニ依ルモノニハ營業稅ヲ課セス
- 第八條 貸付又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸價格百圓未満ノ者ニハ營業稅ヲ課セス
- 第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ従業者四人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス
- 第十條ノ一 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ従業者四人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス
- 第十條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ周旋業、代理業、問屋業、信託業ハ一箇年報償金額二百圓以上ノ者トス
- 第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス
- 一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ販賣
 - 二 自己ノ採掘又ハ採取シタル礦物ノ販賣
 - 三 度量衡ノ製作、修復、販賣
- 第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅
----	------	---

物品販賣業	賣上金額	卸賣 甲 萬分ノ八 乙 萬分ノ二 小賣 甲 萬分ノ三 乙 萬分ノ一 一人毎ニ二圓
銀行業、保險業、無盡業	資本金額	千分ノ三、五 一人毎ニ二圓
金錢貸付業、物品貸付業	運轉資本金額	千分ノ四、八 一人毎ニ二圓
製造業、印刷業、出版業、寫真業	資本金額	千分ノ三、三 一人毎ニ二圓 千分ノ五、五 一人毎ニ二圓
運送業、運河業、棧橋業、船舶繫業、貨物陸揚場業	資本金額	千分ノ三、五 一人毎ニ二圓 千分ノ五、五 一人毎ニ二圓
倉庫業	建物賃貸價格	千分ノ五、七 一人毎ニ二圓 一人毎ニ五、十錢
鐵道業	收入金額	千分ノ十四 一人毎ニ二圓 一人毎ニ五、十錢

附錄 關係法規正文

請負業	從業員ノ内職工勞役者額	千分ノ二、八 一人毎ニ二圓
席貸業	從業者額	千分ノ七十九 一人毎ニ二圓
料理店業	從業者額	千分ノ八十 一人毎ニ二圓
旅人宿業	從業者額	千分ノ五十 一人毎ニ二圓
周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	從業者額	千分ノ二十一 一人毎ニ二圓

物品販賣業中米、麥、豆、石油、肥料、鹽、煙草、薪炭ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣小賣共ニ甲ノ稅率ヲ適用シ、白絹絲、白絹布、棉花、綿、白綿絲、白綿布、白麻絲、白麻布、麥稈眞田、麻眞田、徑木眞田、花寔、砂糖、麥、粉、燐寸、銅鋼鐵地ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣ニ在リテハ甲小賣ニ在リテハ乙ノ稅率ヲ適用シ、其ノ他ノ物品ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣、共ニ乙ノ稅率ヲ適用ス

第十三條 納稅義務アル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ營業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ第二十一條ノ期間内ニ在ル營業者反他ノ法令ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受クル營業者ニ付テモ亦同シ
新ニ開業シタル者ハ其ノ際前項ノ申告ヲ爲スヘシ

第十三條ノ二 納稅義務アル營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ申告スヘシ

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一二就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、代理業、仲立業、問屋業、信託業ハ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ掲ケタル營業ニシテ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ内國ト外國トニ涉リ店舖其ノ他ノ營業箇所アルモノニシテ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル課稅標準ヲ見積リ主タル店舖其ノ他ノ營業場内國ニ在ルトキハ合算シテ之ヲ課シ内國ニ在ラサルトキハ各別ニ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ計算ス但シ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 賣上金、收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル
- 二 資本金、運轉資本金及建物賃借價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル
- 三 從業者ハ前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均ニ依ル但シ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トス

第十七條 製造業ノ資本金額カ左ノ金額ノ十二割ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ課稅標準ヨリ控除ス

一 前年ノ資本金額カ前前年ノ資本金額以下ナルトキハ前年ノ資本金額
二 前年ノ資本金額カ前前年ノ資本金額ヲ超過スルトキハ前前年ノ資本金額

第十八條 課税標準ト爲スヘキ建物賃賃價格ハ貸主カ公課、修繕費其ノ他土地又ハ建物又ハ建物ノ維持ニ必要ナル
經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ店舗其ノ他營業用ノ土地建物ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ノ前年中ノ平
均額ニ依リ之ヲ算定ス

同一區域内ニ在ル土地建物ト雖直接又ハ間接ニ營業ニ使用セサルモノハ賃賃價格ニ計算セス

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ヲ除クノ外十五歳未
滿ノ者及營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ第一期ハ其ノ年六月一日ヨリ三十日限第二期ハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限ヲ
以テ納期トス但シ廢業スルトキ未滿ノ税金ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ税法施行以前ヨリ營業
スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、食庫業、製造業、印刷業、出版業、運送業、運河業、棧橋業、船舶碇繫場業、鐵道業

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條
ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ「場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ「期間内ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ
營業者ニ及フモノトス

第二十六條 課税標準ハ營業稅調查委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

調査委員會閉會後課税標準ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケ
ル調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ課税標準ヲ決定スルコトヲ得

調査委員會閉會後營業者納税義務アルコトヲ申出テ又ハ課税標準ノ増加スルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規
定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ課税標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二 稅務署長ハ毎年納税義務者又ハ納税義務アリト認ムル者ノ課税標準ヲ調査シ其ノ調査書ヲ營業稅
調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條ノ三 各稅務署所轄内ニ營業稅調查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調
査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス
第二十六條ノ四 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

調査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

第二十六條ノ五 調査委員及補闕員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第二十六條ノ六 選舉區域内ニ於テ營業シ其ノ年第十三條ノ申告ヲ爲シ課税標準決定ヲ受ケタル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調査委員及補闕員ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ補闕員ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復権セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケタルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第三十四條ノ二又ハ第三十四條ノ三ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

其ノ年分課税標準決定前選舉ヲ爲ス場合ニ於テハ前年營業稅ヲ納メ其ノ年第十三條ノ申告ヲ爲シタル者ヲ以テ課税標準ノ決定ヲ受ケタル者ト看做ス

營業繼續ノ場合ニ於テハ前ノ營業者ノ爲シタル申告若ハ納税又ハ其ノ受ケタル課税標準ノ決定ハ後ノ營業者ノ爲シタル申告若ハ納税又ハ其ノ受ケタル課税標準ノ決定ト看做ス

營業力法人ナル場合ニ於テハ選舉ニ關スル代表者ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

調査委員ニ當選シタル者又ハ第一項但シ書ニ該當スル者ハ法人ノ代表タルコトヲ得ス

選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ七 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戸長ヲ以テ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第二十六條ノ五 第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス

第二十六條ノ八 稅務署長ハ調査委員及補闕員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ九 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補闕員ノ各選舉ニ付選舉區域毎ニ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ但シ選舉區域ヲ異ニシ各別ニ營業稅ヲ納ムル場合ニ於テハ代人ヲシテ投票セシムルコトヲ得

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第二十六條ノ十 市區町村長又ハ戸長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第二十六條ノ十一 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第二十六條ノ十二 投票開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會セシムヘシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ十三 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキ時ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第二十六條ノ十四 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市

區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十五 一人ニシテ數選舉區ニ於テ調査委員又ハ補闕員ニ當選シタルトキハ當選シタル者ノ選擇スル所

ニ依ル

第二十六條ノ十六 調査委員又ハ補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十六條ノ十七 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ選舉區域ニ變更ヲ生シタル場

合ニ於テハ其ノ任期ハ選舉區域ニ變更ヲ生シタル日ノ屬スル月ヲ以テ終了スルモノトス

第二十六條ノ十八 調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第二十六條ノ十九 調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同

シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ闕員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ調査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第二十六條ノ二十 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補闕員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

選舉區域ノ變更ニ依リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員

ハ選舉ノ日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ二十一 調査委員又ハ補闕員ニ選舉セラレタル者第二十六條ノ六第一項但書各號ノ一ニ該當スルニ至

リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ於テ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條ノ二十二 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ二十三 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十六條ノ二十四 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十六條ノ二十五 調査委員會ハ定數ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條ノ二十六 調査委員ハ自己又ハ其ノ代表スル法人ノ營業ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十六條ノ二十七 三月三十一日迄ニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス

調査委員會開會ノ日ヨリ第二十六條ノ二十二ノ期間以内ニ又ハ三月三十一日迄ニ調査終了セサルトキハ課稅標準

調査未済ノモノニ限リ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二十八 政府ハ調委委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ議ヲ不當ト認ムルト

キ又ハ再調査付シタル日ヨリ七日以内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ課稅標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二十九 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十六條ノ三十 調査委員ニハ手當及旅費ヲ支給ス

第二十六條ノ三十一 政府ニ於テ課稅標準ヲ法定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十七條 納稅義務者政府ノ通知シタル課稅標準ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ其ノ課稅標準ヲ決定ス

審査委員會ハ前條ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ營業ニ關スル事項ヲ質問スルコトヲ得

第二十六條ノ二十八ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

第二十八條ノ二 各稅務監督局所轄内ニ營業稅審査委員ヲ置ク

審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人

審査委員會審査委員及其ノ補助員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條ノ三 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第二十八條ノ四 課稅標準中其ノ年ノ實績ニ依リ計算シタル額カ政府ノ決定シタル額ノ二分ノ一ニ違セサルモノアルトキハ政府ハ營業者ノ請求ニ因リ其ノ課稅標準ヲ更訂ス

第二十九條 其ノ年ニ於ケル營業ノ利益カ其ノ年分營業稅額ニ違セサルトキハ營業者ノ請求ニ因リ其ノ不足額ニ相當スル營業稅ヲ免除ス

前項ノ利益ノ計算ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十條 前二條ノ規定ニ依リ課稅標準ノ更訂又ハ營業稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ政府ニ請求スヘシ但シ法人ニ在リテハ前條ノ請求ニ限リ其ノ年十二月末日ヲ含ム事業年度終了後三十日以内ニ請求スルコトヲ得

第三十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條ノ二 營業者第二十八條ノ一ノ決定又ハ第二十八條ノ四若ハ第二十九條ノ處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 第一條ニ掲ケル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第三十三條ノ二 政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業稅ノ課稅標準ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ニ關スル調査ヲ提出スヘシ

第三十四條 第十三條ノ申告ヲ爲サス若ハ虛偽ノ申告ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲タル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十四條ノ二 營業稅ヲ遁脱シタル者ハ脫稅金高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首スル者ハ其ノ稅金ヲ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第三十四條ノ三 營業稅ノ調査又ハ審査ニ參與シタル者其ノ調査又ハ審査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第三十五條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第三十六條 府縣ハ此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得此ノ附加稅ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

第三十七條 此ノ稅法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限リニ在ラス

明治二十九年年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ稅法ノ營業稅ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條 第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス

第四十條 第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス

○明治四十四年法律第三十九號附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前私設鐵道法ニ依ル鐵道ニシテ輕便鐵道法附則ニ依リ輕便鐵道ニ指定セラレタルモノニ對シテハ其ノ指定ノ日ヨリ本法ヲ適用ス

○大正十二年法律第九號附則

本法ハ大正十二年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十二條、第十七條及第二十八條ノ四乃至第三十一條ノ改正規定ハ大正十二年分營業稅ヨリ之ヲ適用ス

營業稅 查委員及營業稅實害委員ニ關シテハ大正十二年五月十日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第二十六條ノ二十七條ノ改正規定中三月三十一日トアルハ大正十二年ニ限リ五月十日トス

大正十二年三月末日ニ於テ任期ノ終了スヘキ營業稅調査委員及補關員ノ任期ハ大正十二年五月十日迄之ヲ延長ス

●營業稅法施行規則

(大正三年十一月二日)總、各、副署
(勅令第二百二十九號)大臣

(沿革) 大正一〇年一二月勅令第四八五號、一二年三月第七九號改正

抄 錄

第五十五條 個人營業ニ係ル營業稅法第二十九條ノ利益ハ其ノ年ニ於ケル當該營業ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

前項ノ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノ竝當該業ニ係ル營業稅ハ之ヲ控除セス

● 震災被害者ニ對スル租稅減免ノ件 (大正十二年九月十二日 緊急勅令第四一〇號)

第一條 政府ハ震災被害者ノ納付スヘキ大正十二年分ノ第三種所得稅及ヒ營業稅ニ付各納稅者ノ被害ノ狀況ニ應シ命令ノ定ムル所ニ依リ之レヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 政府ハ震災地ニ於テ大正十二年度ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 地租
- 二 所得稅
- 三 營業稅
- 四 相續稅

第三條 第一條ノ震災被害者及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之レヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 震災被害者ニ對スル租稅減免施行ニ關スル件 (大正十二年九月三十日 勅令第四三三號)

第一條 大正十二年勅令第四百十號第三條ノ規定ニ依リ震災地及震災被害者ヲ左ノ如ク定ム

一、震災地

東京府

(西多摩郡及小笠原島ヲ除ク)

神奈川県

埼玉縣

(秩父郡、兒玉郡及大里郡ヲ除ク)

千葉縣

千葉市、千葉郡、市原郡、東葛飾郡、君津郡、安房郡

山梨縣

中巨摩郡花輪村、東八代郡富士見村、南巨摩郡鯉澤町、南都留郡明見村、中野村、忍野村

附錄 關係法規正文

靜岡縣

沼津市、田方郡、駿東郡、賀茂郡

二、震災被害者

・大正十二年九月一日ノ震災（之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム以下同シ）ニ因リ損害ヲ受ケタル者

第二條 震災被害者中政府ノ決定シタル所得金額一萬圓以下（同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル）ノ者ニシテ自己（同居ノ戸主又ハ家族ヲ含ム）ノ所有ニ係ル其住宅又ハ家財ノ過半カ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノニ付テハ大正十二年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス

第三條 震災被害者ニシテ前條ニ該當セサルモノノ大正十二年分第三種ノ所得ニ付テハ政府ノ決定シタル所得金額中ヨリ左ノ金額ヲ控除シ其ノ殘所得金額ニ付所得稅法第二十三條ノ規定ヲ適用ス

一、所得稅法第十四條第一項第六號ノ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具、商品ハ原料品等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害見積金額

二、自己（同居ノ戸主又ハ家族ヲ含ム）ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ノ金額

甲、住宅又ハ家財ノ過半カ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額（同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル以下同シ）ノ全部

同一萬圓ヲ超エ二萬圓以下ノ金額ノ八割

同一萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ六割

同一萬圓ヲ超エ十萬圓以下ノ金額ノ四割

同一萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ二割

乙、住宅又ハ家財ノ損害甲ノ程度ニ達セサルモ其ノ損害著シキトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額（同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル以下同シ）ノ五割

同一萬圓ヲ超エ二萬圓以下ノ金額ノ三割

同一萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ二割

同一萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ一割

丙、住宅又ハ家財ノ損害乙ノ程度ニ達セサルトキ

所得金額一萬圓以下ノ金額（同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル以下同シ）ノ二割

同一萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ一割

三 第一號又ハ前號ノ規定ノ適用ヲ受クル者所得稅法第十四條第一項第一號又ハ第六號ノ所得ニ付震災ノ影響ニ

依リ收入ノ全部又ハ大部分ヲ得ルコト能ハサルニ至リタル時ハ當該所得ノ三分ノ一ニ相當スル金額

前項第二號ノ場合ニ於テ同居者一人毎ノ控除金額ハ各其ノ所得金額ニ案分シテ之ヲ計算ス

震災被害者カ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋ニ住居スル場合ニ於テハ其ノ選擇ニ依リ第一項第一號又ハ第二號ノ

規定ヲ適用ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得ト有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第四條 所得稅法第六十四條第一項ノ請求ヲ爲ス者ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

第五條 第三條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シ殘所得金額八百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ免除ス

所得稅法第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 震災ニ因リ所得稅法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル大正十二年分第三種ノ所得金額ノ不明ト爲

リタルモノニ付テハ政府ハ所得調査委員會ニ諮問シテ其ノ所得金額ヲ確定スヘシ

第七條 震災被害者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ大正十二年分營業稅第二期分ハ之ヲ免除ス

一 營業ノ用ニ供スル家屋其ノ他ノ築造物船舶機械器具等ノ全部又ハ大部分ガ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲

ササルニ至リタルトキ

二 商品及原料品ノ全部又ハ大部分ガ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

前項ノ規定ハ各營業場毎ニ之ヲ適用ス但シ營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課シタルモ

ノニ付テハ各營業場ヲ通シテ之ヲ適用ス

第八條 前條ノ規定ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受ケタル者ニ付テハ第一期分ニ相當スル稅額ヲ以テ營業稅法第二十九條

ノ其ノ年分營業稅額ト看做ス

第九條 震災被害者ノ大正十二年分營業稅ニ付營業稅法第二十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ營業ノ用ニ供ス

ル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等ガ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ヲ營業

稅法施行規則第五十五條ノ經費ト看做ス

第十條 震災ニ因リ營業稅法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル大正十二年分營業稅課稅標準ノ不明トナリ

タルモノニ付テハ政府ハ營業稅調査委員會ニ諮問シテ其ノ課稅標準ヲ確定スヘシ

第十一條 第二條、第三條又ハ第七條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスル者ハ被害ノ狀

況及損害見積金額ヲ記載シタル申請書ヲ大正十三年一月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ提出スヘシ

震災當時ニ於テ納稅地力震災地ニ在リタル納稅者ニシテ被害ノ事實顯著ナルモノニ付テハ前項ノ申請ナキ場合ト

雖政府ノ認ムル所ニ依リ所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ第三條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタルトキハ其ノ殘所得金額ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十三條 本令ニ依ル所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ニ關スル彼分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲

スコトヲ得

第十四條 震災地ニ於テ納付スヘキ地租、所得稅(第二種所得稅ヲ除ク)營業稅及相續稅ニシテ納付未済ニ保ルモ

ノ及大正十二年十月三十一日迄ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十二年十一月一日以後ニ

於テ大藏大臣其ノ納期限ヲ定ム

震災地ニ於テ納付スヘキ地租、所得稅(第二種所得稅ヲ除ク)營業稅及相續稅ニシテ大正十二年十一月一日以後

ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫ス

營業稅及相續稅ニシテ大正十二年十一月一日以後

新生社新刊書目

震災叢書

第一編 訂正増補震災後公布ノ新法令集 金定五十錢價

第二編 最新大震災の法律問題と權利保護策 金定七十五錢價

附録 關係各法規正文

第三編 最新震災 災 慘 話 金定七十五錢價

第四編 震災 奇 聞 と 雜 話 印 刷 中

第五編 耐震建築と避難及衛生 印 刷 中

（第六編以下目下編輯中）

26
19

終